

山梨大学教育学部は、山梨県教育委員会・山梨県総合教育センターとの連携協力のもと、教員養成と現職教員研修の充実をめざして様々な取組を進めてきております。その一環として令和7年度に実施しました各種の教員育成推進事業について報告します。

② 初任者研修における教育学部教員の派遣

山梨県教育委員会との連携のもと、山梨県教育委員会・市町村教育委員会が拠点校等で行っている初任者研修へ本学部の教員を指導・助言者として派遣する事業を、県内4教育事務所、山梨県総合教育センター、特別支援・児童生徒支援課の全面的な協力を得て、計画・実施しています。

〈派遣回数〉	計28回
〈派遣人数〉	延べ31回
	(3校は複数教科に派遣)
〈派遣校種〉	小学校 16校
	中学校 8校
	高等学校 6校
	特別支援学校 1校



校内の先生とはまた少し違う御立場の先生よりご指導いただけたことで、自分自身の教育における視野を広げることができました。また、理論的な部分のもとにご指導くださったことで、指導の根拠を明確にすることができました。

大学の先生方から直接意見を聞くことのできる貴重な場となりました。これで終わりにせず、つながりを保つことでより良い実践研究を探求していきたいです。

難しい授業にチャレンジする初任者の先生の思いに刺激を受けました。授業では子どもたちが意見を交わすことで、新たな見方を獲得していく可能性が見える瞬間があり、研究会ではそのような部分を伸ばしていくにはどうすればよいか、先生方と議論を交わせたことがとても楽しかったです。

③ 第46回教育フォーラム

テーマ

「子どものインターネット・メディア利用に対する保健教育」の新たな展開
～子どもたちの健やかな成長に向けての取り組み～

参加者：対面参加 14名、オンライン参加：37名 合計51名

講師の若本純子教授から、子どもの過度なメディア利用と健康と題しご講演をいただきました。また、附属幼稚園・中学校の実践から得られた知見を参加者と共有し、どのように子どもたちの健康と発達を支えていけばよいかを考えるととてもよい機会となりました。

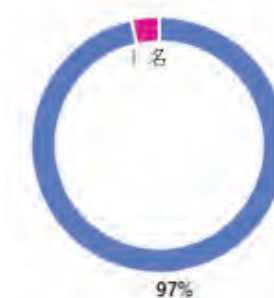
児童生徒を指導していくのに、非常に大切な視点であり、学びであったと思います。データに基づいたとてもわかりやすい講演だった。

生活改善がスクリーンタイムを減らすことや子供たちの心の健康にもつながることを学び、ネットが当たり前にある現代で生きる子どもたちに合わせた指導が必要であると感じました。また、子どもたちがなぜネットに依存してしまうのか、背景まで深く考えて個に応じて支援を行っていくことの大切さを感じました。

若本先生の専門性を活かしたお話と現場の養護教諭の先生方の実践が融合した内容がとても参考になりました。



とても満足した 28名 (97%)
満足した 1名 (3%)



● 100%の方がとても満足した・満足したと肯定的な回答

① 子どもと教師の成長を結び教育評価研修会 (OPP研修会)



法政大学生命科学部 辻本昭彦教授 (ベストティーチャー殿堂入り)

研修では、自己肯定感を促す学習履歴の見取り方、OPPAの中核をなす「本質的な問い」の立て方などのOPPAの基礎的な理論、事例をグループワーク等を取り入れた実践的な研修を行いました。教育センターの外部研修(経験5年目研修教科選択研修としても選択可能)として実施しました。

令和8年度も7月29日(水)に北巨摩合同庁舎(中北教育事務所)で行います。

〈受講者〉 69名 (内訳：小学校40名、中学校17名、高校7名、支援学校5名)

講師の先生の一方的な説明で終わるのではなく、要所要所で個人・グループ活動が取り入れられたため、多くの先生方(普段なかなか関わることの少ない他校種の先生も含む)と学びを共有しながら、楽しく深めることができました。

また、「KAHOOT!」やアイスブレイク、思考ツール等、多くの実践的な紹介や活用方法、体験活動があったため、すぐに実践できる実践の具体的なイメージを持つことができました。講師の辻本先生の話し方もとても勉強になった。

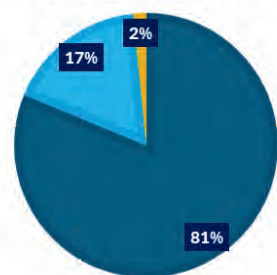
自身の授業改善に用いるべく、特にOPPAシートの活用方法を学びたいとの思いから参加しました。実際の研修がそのまま生徒として授業を受けるような感覚で、「本質的な問い」に対する回答が、研修のはじめと終わりで大きく異なっていたことに驚きました。異校種の先生方とのグループワークも大変興味深かったです。来年も参加したいと考えています。内容、運営方法ともとても良かったと感じています。

子どもの自己肯定感を上げるために、取り組めるワークショップを教員である自分たちも体験し、実感できたことがよかったです。また自分で気づけないことを他者から良さとして見つけてもらい伝えてもらう喜びを大人の自分も感じることができたことから、きっと子どもたちならより強くその思いを感じられるだろうと思いました。

評価についての研修であったが、生徒に対するアプローチ方法、授業の目的の概念、今まで受けた研修会の中でも、トップクラス級に参考になった。特に、演習は、現段階でどの研修にも導入されているが、ここまで意味のあると感じた演習は初めてだったかもしれない。

研修内容について

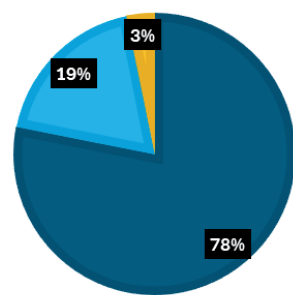
■よかった ■おおむねよかった ■どちらともいえない



98%の受講者が研修内容についてとてもよかった。よかったと回答しています。

役立つ内容であったか

■役立った ■概ね役立った ■どちらともいえない



97%の受講者が役立った、概ね役立ったと好意的に回答しています。